



父母と学ぶ会だより

NO. 29 研修報告号～H28年9月発行



研修報告 ①

静岡県自閉症協会勉強会

平成28年7月17日(日)

自閉症スペクトラムの特性と理解

～はじめの一步～

今回、弓削香織先生の「自閉症スペクトラムの特性と支援」の講演会に参加しました。

自閉症の人達をどの様に支援したら良いのか？また、効果のあがる支援をするにはどのような方法があるのか？

まず自閉症の特徴として「三つ組みの障害」と言われています。それは自閉症であることの判断基準にもなっています。

- ・社会性の問題 対人関係が上手く作れず集団行動が苦手。
- ・コミュニケーションの問題 意味の取り違いや、会話にならなかつたりする。
- ・イマジネーションの問題 強いこだわりや、変化に抵抗がある。
- ・その他 苦手な接し方として、多すぎる説明、言葉のみでの説明、大きな声で叱られることなどあります。

ではどのようにしたら伝わりやすいのか、そのひとつに構造化があります。

「構造化」という手法を用いて、環境を整理することで、状況理解を容易にします。

- ・物理的構造化 どこで何をするのか分かりやすくする。
- ・視覚的構造化 口頭の説明だけでなく「絵」や「実物」を見せる。
- ・スケジュール化 活動の順番、見通し、変化への対応の工夫
- ・ワークシステム 何をどの位やるのか、いつ終わるのか、終わった後何をするのか。

構造化を用いることで理解することを助ける、落ち着いて過ごすことを助ける、自立を達成しやすくするなどの効果があります。

(文責 池田 浩)

1日のスケジュール例

自閉症の3つの主な特徴





研修報告 ②

静岡県知的障害者福祉協会講座

平成28年7月4日、7日、22日

応用行動分析学による障害のある人の 問題行動の軽減と適応行動の形成

行動分析学とは、スキナーによって創始された心理学の一体系である。行動を分析する科学であり、行動の問題を軽減・修正し新たな行動を獲得することである。また問題行動の原因として重要視するのは「現在のその人の置かれている環境」であり、過去に原因を求めない。

まず、先行条件、問題行動、結果条件の3つで分析し、問題行動に影響を及ぼしている先行条件と結果条件が分かれば、この2つを変えることによって問題行動を変えることができる。様々な事例も検討した。攻撃的行動、自傷、破壊行為等々。そしてその全てで一貫していたのは、全ての原因は支援するこちら側の問題として捉えること、良い所を探し褒めて伸ばしていくこと。無駄だと思わずに何でも試してみることであった。

問題行動ばかりに注目してしまいがちだが、ただそれを注意してやめさせようとするばかりでは逆にますますエスカレートしてしまうこと。本人も注意されることに慣れてしまい、好ましくない関係が形成されてしまう。良い状態はどんな時なのかをよく観察し、どんな小さなことでも褒め（言葉の分からない人には笑顔を見せる、ジェスチャーや頭をなでる等）そこを伸ばしていくことが結果的に問題行動の軽減につながる。例えば、人の物を勝手に持ち出してしまう方の場合、持ち主に職員と一緒に「貸して下さい」と伝え貸してもらおう。そして「貸してください」と言えたことを褒める。それを繰り返すことで、勝手に持ち出すという行動は軽減される。

今回の講師である福永さんによれば、行動分析学を支援に組み入れることで、何故なのか？結果はどうだったのか？が良く分るようになり、部分的に改善され、そのことで支援が横に広がっていき、他の領域も改善されていく。潜在していた能力もでてくることもあるという。利用者が落ち着くことで支援者も余裕を持って支援に取り組める。あせらずに利用者の良い所をどんどん見つけていこうと思った。
(文責 長谷川 直人)

言葉かけの参考例

行動	+	不快な出来事	→	行動の減少
行動		結果		行動の減少
お手伝い	+	叱られる	→	お手伝いしなくなる

行動	+	ほうび	→	行動の増加
行動		結果		行動の増加
お手伝い	+	ほめ言葉	→	よくお手伝いするように